

第29回中国化学会年会への参加



CCS 年会開会式

8月3日～6日、北京大学で開催された第29回中国化学会（CCS）年会に招待され、中條善樹筆頭副会長、川島信之常務理事とともに、日本化学会会長スタッフの立場で出席した。また、ジャーナル担当部長として鈴木慎一氏も出席した。

CCS 年会は2年に1回、中国各地の大学の持ち回りで開催されている。今回の第29年会の参加者は8000人以上と、前回に比べ3000人も増えたといわれており、参加人数からも中国の勢いを感じた。年会を通したテーマは“Beautiful Chemistry（美麗化学）”，会場の至る所に美麗化学のロゴが掲示してあった。

開会式

8月4日（月）の午前中いっぱいかけて、北京大学の体育館において開会式が行われた。体育館が一杯になるほどの約3000人が参加し、大変な熱気に包まれていた。会場前方の



記念品を交換する中條筆頭副会長と姚会長

指定席には、白春礼 前会長・現中国科学院院長、姚（やお）建年 中国化学会会長をはじめとする中国化学会幹部や、日本、米国、英国、ドイツ、フランスなど、各国の化学会、IUPAC や企業からの参加者約100名が着席した。外国人が多い中、開会挨拶、来賓祝辞、表彰式、基調講演など、すべてが中国語で行われたことには大いに驚いた。予稿集もほとんど中国語で、国際化が進んでいなかった。

ケミカル・リーダーシップ・フォーラム



ケミカル・リーダーシップ・フォーラム（Mark Cesa IUPAC 会長の講演）

8月5日（火）の終日、各国の化学会（台湾・英国・フランス・米国・日本）、IUPAC、そして企業を代表して Evonik と Dow が参加したケミカル・リーダーシップ・フォーラムが開催された。“How can Chemistry be a bridge”の題目の下、各機関から主な活動内容、組織運営を中心に講演があった。日本からは中條筆頭副会長が講演され、その中で日本化学会年会の英語化・国際化を推進していることをPRの上、各国からの参加を呼びかけられた。特に、中国の年会は2年に1回のため、「来年は中国で年会が

ないので、是非日本へ発表に来て下さい」と述べられ、好意的に受け止められていた。

なお、同日、本フォーラムと並行して、第4回日中若手化学者フォーラムが行われた（次ページ参照）。

CCS-CSJディナーミーティング

8月5日（火）の夕刻より、中国化学会と日本化学会のディナーミーティングが開催された。中国からは姚建年 会長（中国科学院、東大藤嶋研出身）、趙進才 教授（中国科学院、明星大学出身）、林金明 教授（精華大学、東京都立大学出身）が出席された。双方の化学会で、年会英語化・国際化、ジャーナル戦略、会員増強（特に法人会員）等について情報交換した。

皆さん日本への留学経験があることから、日本語で会話し、改めて親交を深めることができた。



ディナーミーティング

3泊4日の滞在中、上記以外にもジャーナル戦略の個別ヒヤリング、ジャーナルの展示、全体での晩餐会など、盛りだくさんの内容であった。

〔尾関雄治（榊原会長スタッフ：東レ株式会社）〕

©2014 The Chemical Society of Japan